



正庁正席の間



正庁諸役会所



至善堂



正門の柱の弾痕



玄関前の左近の桜



扁額「游於藝」

## 見所

藩校当時の建造物が現存する弘道館では、静かな館内を歩きながら水戸の学風に触れることができます。館内には、藩主が臨席して文武の大試験が行われた正庁の間や対試場、徳川慶喜が幼い頃に学び大政奉還の後に恭順謹慎生活を送った至善堂などがあります。

また、厳冬の中いち早く咲く<sup>ろうばい</sup>蠟梅や齊昭が愛した幾種もの梅、鮮黄色の小花を集めてつける<sup>さんしお</sup>山茱萸、齊昭夫人ゆかりの左近の桜、夏の日差しに映える<sup>あさるすべり</sup>百日紅など、四季折々の美しい花や樹木と出会えます。



## 偕楽園 (水戸市常磐町 1-3-3) 休園日なし

入園料：大人 300円 小人 150円 満70歳以上 150円  
団体 (20名以上) 大人 230円 小人 120円  
開園時間：6:00～19:00※1 7:00～18:00※2  
開園から午前9:00まで (梅まつり期間は除く) は無料  
常磐自動車道水戸IC (国道50号バイパス経由) 約20分  
バス JR水戸駅 (北口4⑥/バス乗り場) 約20分  
(お問い合わせ) 偕楽園公園センター (水戸市見川 1-1251)  
TEL 029-244-5454 FAX 029-244-5866

## 好文亭

休館日：12/29～12/31  
観覧料：大人 200円 小人 100円 満70歳以上 100円  
団体 (20名以上) 大人 150円 小人 80円  
観覧時間：9:00～17:00※1 9:00～16:30※2※3  
TEL・FAX 029-221-6570

## 見晴亭 (観光案内・県産品販売)

開館時間：9:00～17:00  
TEL 029-306-8911 FAX 029-306-8912

## 弘道館 (水戸市三の丸 1-6-29)

休館日：12/29～12/31  
観覧料：大人 400円 小人 200円 満70歳以上 200円  
団体 (20名以上) 大人 300円 小人 150円  
観覧時間：9:00～17:00※1 9:00～16:30※2※3  
徒歩 JR水戸駅北口 約8分  
(お問い合わせ) 弘道館事務所  
TEL 029-231-4725 FAX 029-227-7584

- ※1 4月1日～9月30日
- ※2 10月1日～3月31日
- ※3 梅まつり期間は原則 17:00まで

偕楽園ホームページ <https://www.ibarakiguide.jp/kairakuen.html>  
弘道館ホームページ <https://www.ibarakiguide.jp/kodokan.html>

〔表紙〕 好文亭四季模様之図 (部分) 大洗町幕末と明治の博物館寄託  
弘道館鳥瞰図 (部分) 徳川齊昭肖像の袴部分

2019年9月 発行

# 偕楽園

史跡・名勝「常磐公園」

梅の香漂う歴史の景勝地

# 弘道館

江戸時代の総合大学

国指定特別史跡・重要文化財

# 偕楽園



## 沿革

天保4年(1833)、徳川齊昭は、藩内を巡った際、南に千波湖や緑ヶ岡をのぞみ、筑波山や大洗の海を遠望できる高台(七面山)を藩内随一の景勝地として遊園を設けることを決めました。齊昭は、自ら造園構想を練り、天保12年(1841)から造園工事を始め、翌天保13年(1842)7月1日に開園しました。

偕楽園の名称は、『孟子』の「古の人は民と偕に楽しむ、故に能く楽しむなり」という一節からとったものです。齊昭撰文の「偕楽園記」には、「是れ余(齊昭)が衆と楽しみを同じくするの意なり」とあり、藩主や藩士のみならず庶民にも開放する目的を掲げた近代の公園に近い性格を持つ庭園でした。

大正11年(1922)3月、偕楽園、桜山、丸山が「常磐公園」として史跡及び名勝に指定されました。

## 見所

偕楽園は、早春には約100品種、3,000本の梅の花が咲きほころぶ梅の名所として知られていますが、起伏に富んだ地形に杉林や竹林、桜やツツジ、萩などのほか表門、偕楽園記の碑、吐玉泉や仙奕台など歴史を偲ばせる史跡があり、四季を通じて楽しむことができます。眼下には千波湖や田鶴鳴梅林、四季の原など雄大な景観が広がり、好文亭3階(楽寿楼)からの眺めは格別です。



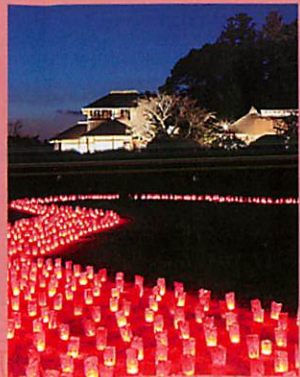
表門から竹林、吐玉泉や大杉森をぬけて好文亭へ行くコースが、齊昭が意図した「陰と陽の世界」を堪能できます。**打鼓コース** (約40分)



## 4 好文亭

好文亭は、木造二層三階建ての好文亭本体と木造平屋造りの奥御殿から成り、その位置から建築意匠まで齊昭が自ら定めたといわれています。好文亭という名称は、梅の異名「好文木」からつけられました。齊昭は、ここに文人墨客や家臣、領地の人々を集めて、詩歌や養老の会などを催しました。

好文亭は、昭和20年(1945)8月2日未明の空襲で全焼しましたが、昭和30年(1955)から約3年をかけて復元されました。



9 キリシマツツジ

# 偕楽園 年間スケジュール

偕楽園では、120回を超える歴史のある「水戸の梅まつり」をはじめ、1年を通してさまざまなイベントが行われています。季節ごとに変わる偕楽園の姿をお楽しみください。



水戸藩第九代藩主  
**徳川 斉昭**  
1800-1860

徳川斉昭(烈公)は、寛政12年(1800)に第七代藩主治紀の三男として江戸の小石川藩邸で生まれました。長く部屋住みの身であった斉昭は、30歳で藩主に就任すると、すぐに藩政の改革に取り組み、儉約の徹底、軍制の改革と追鳥狩の実施、藩内総検地などの諸政策を推進します。のちに天保の改革と呼ばれた諸政策のなかで、特に力を注いだのが、藩校弘道館の建設と偕楽園の造成でした。

この斉昭像は、萩谷罌喬が描いた34歳の姿で、若き先導者としての改革への思いが伝わる肖像です。

### 斉昭関係略年表

寛政12年(1800)	水戸藩第七代藩主治紀の三男として誕生
文政12年(1829)	水戸藩第九代藩主となる(30歳)
天保4年(1833)	はじめて水戸に帰国する(34歳)
天保8年(1837)	天保の改革を始める(38歳)
天保12年(1841)	弘道館の創建(42歳)
天保13年(1842)	偕楽園の開園(43歳)
弘化元年(1844)	幕府の命で致仕謹慎(45歳)
嘉永2年(1849)	再び藩政関与を許される(50歳)
安政6年(1859)	安政の大獄、水戸に永蟄居(60歳)
万延元年(1860)	謹慎中の水戸城中で没する(61歳)

### 一張一弛

偕楽園創設の理念を記した「偕楽園記」に「一張一弛」というキーワードがあります。「一張一弛」とは『礼記』にある孔子のことばで、厳しいだけでなく時には緩めて楽しませることも大切であるという教えです。

斉昭は、優れた人材の育成を目指して天保12年(1841)に藩校弘道館を、翌年に偕楽園を開きました。文武修業の場(一張)である弘道館と、修業の余暇に心身を休める場(一弛)である偕楽園は、相互に補完しあう一対の教育施設として構想されたのです。

### 梅を愛した斉昭

斉昭は、偕楽園と弘道館に数多くの梅を植えた理由を種梅記碑(弘道館公園内)に刻んでいます。

春の魁として咲く梅の花は詩歌のよい題材になり、また、実は梅干にして軍事や飢饉の際の非常食となることから、実用を重んじた斉昭は領内に広く植樹することを奨めました。

### 徳川將軍家と水戸家系譜



# 弘道館



## 沿革

旧水戸藩の藩校である弘道館は、徳川斉昭が推進した藩政改革の重要施策の一つとして開設されました。

弘道館建学の精神は、天保9年(1838)に斉昭の名で公表された「弘道館記」に「神儒一致」「忠孝一致」「文武一致」「学問事業一致」「治教一致」の5項目として示されています。弘道館は、天保12年(1841)8月1日に仮開館式が挙行され、さらに15年余の年月を要し、安政4年(1857)5月9日に本開館式の日を迎えました。

弘道館では藩士とその子弟が学び、入学年齢は15歳で卒業はありませんでした。学問と武芸の両方が重視され、学問では儒学・礼儀・歴史・天文・数学・地図・和歌・音楽など、武芸では剣術・槍・柔術・兵学・鉄砲・馬術・水泳など多様な科目が教えられていました。

その後、幕末の動乱期を経て、明治5年(1872)の「学制」発布により弘道館は閉鎖され、県庁舎や学校の仮校舎として使用されました。幾度の戦火を免れた正門、正庁及び至善堂は、昭和39年(1964)に国の重要文化財に指定され、往時の姿を今に伝えています。



藩校として全国一の規模をほこる敷地内には、正庁・至善堂を中心に学問を学ぶ大館、武術を修練する武館、医学館、天文台、馬場、訓練場などがあり、総合大学のような施設でした。また、建学の精神を表した弘道館記碑を納める八卦堂、鹿島神社、孔子廟、学生警鐘が建てられた一画は聖域とされていました。



種梅記碑



鹿島神社  
(水戸市指定文化財)

	現在の弘道館
	藩校当時から現存する建造物・石碑
藩校当時の面積	10.5ha
弘道館公園の面積	3.2ha

## 弘道館全図

※この図面は藩校当時のものです。  
訓練場・馬場・医学館・文館・天文台・武館等は  
現在は存在していません。



八卦堂(復元)



学生警鐘



孔子廟(復元)



要石歌碑



正門(重要文化財)



正庁・至善堂(重要文化財)